太子町文化財資料　第５集

太子町の神社・寺院

―太子町周辺の神社・寺院―

１９８９年１０月

太子町教育委員会

例　　言

1．　本書は、『太子町史草稿一輯』より転載したものである。

2．　本書の編集は、太子町教育委員会社会教育課三村修次・田村三千夫が担当した。

目　　次

1．太子町の神社　－－－－－－－－－－－－－－　1
2．太子町の寺院　－－－－－－－－－－－－－－　4

表 目 次

第１表　太子町の神社一覧表　－－－－－－－－－　12
第２表　太子町の寺院一覧表　－－－－－－－－－　15

１．太子町の神社

醍醐天皇延喜 5年（ 927）にできた「延喜式神名帳」には全国に3132座があげられている。後世、これを「式内社」と呼んでいるが、いわば国家の奉幣をうける官社であった。 播磨国には大社 7座、小社42座があった。以下太子町に関係のある主な神社を列挙してみよう。

１ 阿宗神社

龍野市広山字宮ノ前　県社　延喜式神名帳揖保郡７座の１

祭神　神功皇后・応神天皇・玉依姫命

社伝によれば、欽明天皇の御代（ 540～ 571）大伴狭手彦が勅を奉じて豊後国の宇佐八幡（大分県宇佐市）を立岡の「岡の峯」に勧請したのがはじまりという。また、播磨鑑などでは阿宗親王を祀るとも伝えている。阿宗親王とは神功皇后の同母弟・息長日子王で、針間阿宗君の祖であるとされている。母は葛城之高額比売といい、伊頭志君麻良比と同族であった。麻良比は『播磨風土記』に揖保郡麻打里に居を構え、そこで二女が夜麻を打ったという。麻打は今の阿曽であるといい、阿宗神社はおそらく阿宗君一族が祖先である息長日子王を祀ったのでないかともいわれている。八幡神に対する信仰が盛んになるにしたがって、古社が八幡社に変わった例は多い。阿宗神社もいつしか阿宗親王にかわって応神天皇・神功皇后・玉依姫を主神とするようになったのであろう。

文治 5年（1189）、内山城主塩津新左衛門尉義経は当社を信仰し、岡ノ峯から社殿を広山村に遷した。義経は新羅三郎義光の長男塩津太郎の孫で、文治 2年（1186） 5月、源頼朝の命により近江国から内山に移り、内山城を築いた人であるという。時宗を開いた一遍上人も当社に帰依し、昭応元年（1288）に詠歌を奉納し、嘉慶 2年（1388） 3月、前越後守赤松顕則は観応元年（1350）の寄進状の旨にまかせて田地四町を寄進したと言う。天文18年（1549）、鳥居再興の時には地頭代官周東佐渡守が願主となり、弘山荘が一条家領であった関係から、額面は橋本中納言公夏の染筆にかかると伝える。また、神輿は文永年中（1264～1274）に楽々山円勝寺が当社別当職であったことより設けたと伝えるから、円勝寺との関係も深いものがあったと思われる。

2　黒岡神社

揖保郡太子町太田字八幡

祭神　誉田別尊（応神天皇）　菅原道実　藤原貞国

最初は八幡宮であったという。

『峯相記』に大炊天皇（淳仁天皇）天平宝字 7年（ 763）、揖保郡布施郷に五足の子牛が生まれ、これに対して異賊が攻め来るという由の占いがあったので、子細を奏上した。はたして翌年新羅の軍船２万余播磨国まで攻め込み、家島・高島に陣をとった。朝廷では非常に驚き、藤原貞国を将軍に任じ的の姓を賜い、近国の官兵を集め播磨国の正税を調伏壇所料や兵糧にあて、異賊を追い打つことを命じた。播磨国国分寺東院では勝軍勝敵の秘法が行われ、将軍貞国は第１陣として魚吹の津より出発し、中手の大将は国司・飾磨郡司等、東手は明石大領・大和続長宿弥等があった。ところが俄かに大風が吹き異賊の船 732艘が沈没し、敵の大将の頸をもうちとった。貞国はこの偉功により西五郡（赤穂・宍粟・揖保・飾磨・佐用）の大領となったという。また、この時に寺院では太田寺・池上寺・蓮城寺・蓮花寺・川原寺・日輪寺、神社では松原・魚吹・弘山・那祇山の八幡神に祈願した。太田・福井・石見等は貞国の支配地であった関係から黒岡神社に貞国を祀ったと伝える。また、菅原道実を祀ったのは、道実が左遷され筑紫に行く途中、広畑の高浜に滞留中、当社へ参詣されたゆかりによるという。

3　稗田神社

揖保郡太子町鵤字稗田 926

祭神　稗田阿礼　あるいは　膳大娘（聖徳太子妃）

推古天皇14年（ 606）勅願により造建されたという。祭神については二つの説がある。

一　稗田阿礼を祭神とする説

稗田氏が大和より移住し、先住地の三社明神（祖先神たる天鈿女命・猿田彦・古事記　編纂に大功のあった稗田阿礼を勧請したのであろうとする。

二　膳大娘を祭神とする説（聖徳太子妃）

斑鳩寺境内にある聖霊権現社が聖徳太子を祀り、稗田神社はお旅所である関係から太　子の妃膳大娘であろうとする。

いずれが正しいかわからないが、中世において、法隆寺・斑鳩寺と稗田神社とは密接不可分な関係をもっていた。『鵤荘引付』応永25年（1418） 8月 5日の条によれば稗田社神主職は寺門の評定を経ずに他人に渡したものは罪科に処せられ

ることになっていた。祭神にたいする諸説はとにかくとして、おそらく鵤荘開発過程において稗田社が勧請されたこと、鵤荘斑鳩寺成立後その鎮守神的な役割をはたすようになったこと、法隆寺・斑鳩寺の管轄下におかれていたこと等のことはいえるであろう。

4　魚吹八幡宮

姫路市網干区宮内

祭神　品陀和気命　息長足比売命　玉依比売命

『峰相記』に「大菩薩初テ御上ノ時　当国の神達賀古郡マテ集リ御迎ニ伊保川ノ辺ニ参会シテ　神楽祭礼ノ義有キ、其跡ニ大菩薩ヲ崇メ奉ルト云本縁アリ　此八幡ニテ坐スカ」とある。社記には、昔、息長足比売命（神功皇后）が新羅より帰られる時、船をこの浦によせられたところ、玉依姫命が海中より現われ、大魚多く浮び出て砂を吹き寄せこの地を開いたといい、また、聖武天皇神亀 2年(725)に魚食公が創建したが、一時すたれていたのを貞観 2年（ 860）にいたって苦瓜本道が再建したとも伝えている。網干町史では、延喜式に記される阿波底神社が八幡神社にあたるのではないかとし、網干の開拓と阿曇氏さらに綿津見神との関係をも考えようとしている。

所伝はともかくとして、魚吹八幡宮は既に保元 3年（1158）に石清水八幡宮の別宮となっていた。石清水文書、保元 3年12月 3日官宣旨によれば、石清水八幡宮の所領は宿院極楽寺領もあわせて37国 137所にわたり、そのうち別宮は35ヵ所であった。その後も荘園・別宮の数は増加し、鎌倉時代には別宮だけでも64の多きに達したといわれている。播磨国においても、荘園には佰可荘・松原荘・多豆島荘・蟾原荘・赤穂荘・緑荘・船曳荘・福田荘・家島別府、別宮には魚吹別宮と松原別宮とがあった。八幡神に対する崇拝は武工層の勢力伸長とともにますます盛んになり、魚吹別宮も播磨国における八幡信仰の一中心をなしていたと考えられる。氏子は22ヵ村、中世においては28ヵ村に及んだといわれ、太子町内石海地区の一部も含まれていた。古代中世においては、おそらくこの範囲内に多くの神領をもっていたものであろうか。

5　破磐神社

姫路市大市西脇

祭神　応神天皇・神功皇后・仲哀天皇

西脇の外 5つの村落の産土神である。神功皇后三韓征伐よりの帰途、妻鹿の湊

に船をよせられ、三野荘麻生山にて天神地祇に祈られた。この時に弩弓の弦を求められ、こころみに矢を射られたところ、三の矢が大市の西脇にある大磐石にあたり、三つに破れた。そこでこの矢と仲哀天皇・神功皇后・応神天皇を祀り三神と称したという。また、『峯相記』によると、聖徳太子が大石を破って夷賊に見せ投げられたところ、三輪川より生駒山を投げこして播磨国ユスルノ山に留まった。そこが大市破磐明神であると記している。

6　石海神社

太子町宮本字宮ノ前

祭神　舎人親王

舎人親王は天武天皇の第３皇子、御母は持統天皇である。日本書紀の編集者であり、後に崇道盡敬皇帝と追諡された。旧石海村の産土神であるが、いつ頃創建されたかは不明である。或いは室町時代初期に伏見藤森神社（祭神　舎人親王）から勧請したのではなかろうかともいわれている。

その他、太子町には伊都岐神社（山田　祭神は伊都岐島姫）・大歳神社（原　祭神は若歳神）・若王子神社（上太田　祭神は仁徳天皇）・王子神社（王子　祭神は彦窟真命）・八幡神社（吉福　祭神は応神天皇）等があるが、由緒は不明である。

２．太子町の寺院

Ⅰ　古代の寺院

太子町に隣接して西脇・下太田等に８世紀（奈良時代）以前の廃寺跡があるが、町内にはまだこのような仏教寺院の遺跡は発見されていない。しかし、鵤の地は聖徳太子・法隆寺にゆかりのある資料的に最も確実な土地であっただけに、西播地方における仏教普及の根拠地であったことは疑えない。寺伝のみあって確証はないが、以下いくつかの古寺について概説してみよう。

1　斑鳩寺

太子町鵤字斑鳩寺 709番地ほか

天台宗

西播随一の名刹である。推古天皇の14年（ 606）秋 7月聖徳太子は天皇の前で勝鬘経を講じ、また、岡本宮で法華経を講ぜられた。太子の威儀厳然たること僧のごとく、諸主・公主及び臣・連・公民信受して嘉せざるものなく、講終った時、仏天感応して大蓮花を降らし、仏頭出現の霊兆があった。天皇は大いに悦ばれ、播磨国の水田 360町歩を賜った。太子はこれを法隆寺に寄進し、みずから当地にこられ四方に石を埋めて境をされた。これを鵤荘というのは異香薫香を放ったために異香留家荘となづけた。五百井・須方・山本・須藤・玉田氏、太子に従い大和より移り、留まったものの子孫であるという。太子はまた、檀特山に登り勝地をみて斑鳩寺を創建され、手づから等身十六歳の像ならびに二歳南無仏の像を刻み、安置された。

以上が寺伝の概要であるが、斑鳩寺の創建が聖徳太子時代であるという証拠はどこにもない。斑鳩寺の創建をいかに古く遡のぼらせようとしても、法隆寺の勢力、鵤荘の発展を背景としなければ考えられないのであるから、おそらく堂塔完備の寺院となった時代は平安時代であったとするのが妥当であろう。

2　願成寺　　松尾山

太子町松尾字西辻ノ下 185番地

臨済宗　妙心寺派

神亀年中（ 724～728 ）行基が建立し、往古は大寺であったと伝える。『峰相記』によると、行基の弟子澄光上人の建立にかかるという。その後、しばしば兵火にあい廃絶していたのを明応 9年（1500）妙心寺の景川禅師がこれを再建して禅宗寺院となし、松尾山願成寺称した。また、天正の兵乱の時、赤松則房が当寺に屯軍したが、この時の兵火にかかってわずか観音堂を残すのみとなったという。

3　長福寺

太子町鵤

廃寺

『峰相記』によると、願成寺と同じく澄光上人の建立と伝えられ、嘉暦４年の『鵤荘絵図』にも長福寺の名がみられる。斑鳩寺の北部に長福寺という小字が残っているが、おそらくここに建立された寺院であろう。

『鵤荘引付』によれば大永 4年（1524） 8月19日鵤荘は長福寺分の黙定をおこない、これを東政所に直納することとした。長福寺の住持職についても、同年赤松氏より晏清軒修蔵王に補佐するようにとの下知があり、浦上掃部助からも奉書をうけた。多少紛糾したらしいが、結局は大永6 年（1526）になって晏清軒の補佐を認め、寺と本尊等を彼の手に渡した。おそらく、この頃の長福寺は衰微しきっていたのであろう。いつ頃廃絶したかは不明である。

4　円勝寺　　楽々山

龍野市誉田町福田字八軒屋

廃寺

行基の開基で、本尊薬師如来は行基の所作という。戦国時代には衰微し、賊盗の難にあい、廃墟同然の有様になっていた。天文10年（1541） 4月 7日、斑鳩寺が全焼した時、円勝寺中院坊源秀・普門坊玄智・浄土坊永憲・円光坊昌仙・菩提院玄等は、本尊薬師如来・日光・月光菩薩・十二神将・仁王像をもって斑鳩寺に移住し、特に昌仙は勧進の棟梁となって同寺を再興した。この結果、斑鳩寺は法相宗から天台宗にかわり、円勝寺は廃寺となった。

楽々山は太子町内ではないが、斑鳩寺とは特殊な関係があるので、ここで述べた。

5　蓮城寺

太子町蓮常寺

廃寺

『峰相記』によると、天平宝字 8年（ 764）新羅の賊船が来襲したときに、藤原貞国が戦勝祈願をした寺院であるという。徳道上人の創建、真言宗の大寺であったが、嘉暦の兵火に消失し、天文元年（1532）、宗円が真宗寺院として再興したと伝えている。

6　川原寺

太子町原

廃寺

やはり、天平宝字 8年（ 764）新羅の賊船が来襲したときに、藤原貞国が戦勝祈願をした寺院であるという。川原寺は廃絶したが、江戸時代には寺跡が残っていた。

7　日輪寺

太子町中太田

真言宗　→　浄土真宗

『峰相記』によると、天平宝字 8年（ 764）新羅の賊船が来襲したときに、藤原貞国が戦勝祈願をした寺院であるという。その後、日輪寺は天元 4年（ 981）澄観法師が同寺の頽廃を歎いて新たに一宇を創建して法脈を相続した。真言宗であったが文明年中（1469～1486）蓮如上人によって浄土真宗に改宗したという。

そのほか、嘉暦４年の鵤荘絵図には松庵寺・新善光寺・孝恩寺・佐岳寺等の寺院名が記入され、『鵤荘引付』にも龍禅寺・教恩寺・新福寺等の名がみえる。このうち、孝恩寺は鎌倉時代末期の創建であるから別記するが、他の寺院の由緒については全くわからない。　播磨国に現存する重要文化財は10世紀以後から急激に増加してくる。これは全国的な現象であって、おそらく、天台・真言両宗が隆盛になり、地方に普及していく過程と並行している。以上のべた諸寺院のうちには、史料の裏付けがなくても、奈良時代或いはそれ以前に創建された寺院があるかもしれない。しかし、大多数の寺院は、天台・真言宗が播磨に浸透していく過程、すなわち平安時代以降の創建ではないかと思われる。

Ⅱ　中・近世の寺院

8　本住寺

廃寺

播磨国の禅宗寺院は永仁（1293～1298）の末ころ東福寺の門流潜渓が平野に法覚寺を建立したのを最初とし、特に赤松則村が法雲寺を、同則祐が宝林寺を建立して以来、著しく興隆した。

本住寺は中国から日本に帰化した高僧一山一寧の法系である。天柱宗済によって創建された。嘉吉の乱後、赤松氏復興の大恩人といわれた天隠龍澤も本住寺に住んだ。天隠は播磨国で赤松の一族諸臣から非常な尊敬をうけた。本住寺がいつ建立されたかは明確ではないが、永享 3年（1431）が天柱の死後49年にあたるので、少なくとも永徳 2年（1382）以前の建立と考えられる。天柱の同門宝洲宗衆が千本の慈恩寺を建立したのが応安 3年（1370）といわれるから、本住寺の建立もおそらくこの頃であろうと思われる。

本住寺は天隠から江心□□へと受け継がれたが、歴史は明確にわからず、わずかに『鵤荘引付』や法隆寺文書から天文10年（1541）頃まで鵤荘内の禅宗寺院として重要な役割を果たしていたことがわかる。

『斑鳩寺記録』にある寛文 8年（1668）年頃の地図に斑鳩寺寺坊（雙樹院・円光院）に接して北に「本住寺」と記入されている。明治 6年の鵤村絵図では、この地は官藪と記されている。いつ頃廃寺になったかわからないが、江戸時代初期には細々ながらも存続していたのであろう。

9　西光寺

揖保郡太子町鵤字小田町1244番地

浄土真宗　本願寺派

斑鳩寺の東南方にある。慶長年間（1596～1614）に五百井教祐が創建したという。『鵤荘引付』の文亀元年（1501）、法隆寺文書の天文10年（1541）に西光寺の名が記載されている。斑鳩寺寺坊の一つであったともいう。中世の西光寺が現在の西光寺の前身であるのか、全然無縁なのかは不明である。あるいは、天文10年（1541）以後荒廃していたのを慶長になってから教祐が再建して真宗寺院としたのかもしれない。

１０　法心寺

揖保郡太子町佐用岡字寺垣内 562番地

浄土真宗　本願寺派

永昭元年（1504）、僧願心の開基と伝えている。

１１　願念寺

揖保郡太子町上太田字南屋敷 814番地

浄土真宗　本願寺派

もと真言宗であったが、僧円照が蓮如に帰依し、永正10（1513）に真宗に改宗したという。

１２　照雲寺

揖保郡太子町広坂東垣内 450番地

浄土真宗　本願寺派

嘉吉の乱の時、楯岩城主赤松刑部少輔範資が戦死し、その臣戸磨弥四郎もこれ

に殉じた。弥四郎の子與四郎は村民に育てられ、のちに出家して実如上人に帰依し、一宇を建立した。これが当寺のはじまりであり、永正13年（1516）に僧退応が開基となったと伝える。

１３　正円寺

揖保郡太子町阿曽字屋敷 376番地

浄土真宗　本願寺派

もと天台宗の寺院であったが、明応 3年（1494）、順了が真宗に改宗したという。

１４　了源寺

揖保郡太子町福地字福地 408番地

浄土真宗　本願寺派

天文 2年（1533）に善定が真言宗光明寺を建立した。後、貞亨元年（1684）、真宗本願寺派に転宗し、了源寺という名称を本願寺から賜った。

１５　蓮光寺

揖保郡太子町常全字入ノ口 204番地

浄土真宗　本願寺派

天文元年（1532）、了願が創立したという。

１６　蓮生寺

揖保郡太子町岩見構字前田 276番地

浄土真宗　本願寺派

源頼政五代の孫兵庫頭宗重の一族が創建し、光照寺といった。もと天台宗であったが、明応 5年（1496）、玄證が真宗に改めた。寛文 8年（1688）教岸の中興という。

１７　善導寺

揖保郡太子町竹広字前田 185番地

浄土真宗　本願寺派

もと天台宗であったが、明応元年（1492）、覚住が蓮如に帰依し、真宗寺院になったという。その後、一時衰退したが、元禄年間に諦玄が中興した。

１８　教興寺

揖保郡太子町蓮常寺字大門 147番地

浄土真宗　本願寺派

聖武天皇の御代に徳道上人が建立し、蓮城寺と称したという。真言宗の大寺院であったが、嘉吉年間の兵火で消失し、後、天文元年（1532）に宗円（当村の八木三郎右衛門）が証如上人に帰依し、寺院を再興して浄土真宗に改めたと伝える。その後、また一時衰微したが、明和 8年（1771）に円隆が中興した。

１９　正覚寺

揖保郡太子町立岡字前田 346番地

浄土真宗　本願寺派

永正13年（1516）、多田専海が開基と伝える。

２０　浄因寺

揖保郡太子町太田字清水本2045番地

浄土真宗　本願寺派

天平宝字 8年（ 764）、新羅の賊船討伐に功績があった藤原貞国祈願寺の一つ日輪寺のあとである。天元 4年（ 981）澄観法師の開基とも伝える。真言宗であったが、文明年中（1469～1486）蓮如上人の教化によって浄土真宗になったという。林田藩主建部氏の帰依深く、代々の位牌を安置した。安永年中に火災にあい、本堂は安永 7年（1778）の再建である。

２１　清光寺

揖保郡太子町矢田部字小倉 211番地

浄土真宗　本願寺派

徳道上人が草庵を建立した跡と伝える。明応元年（1492）にいたって祐法が再興したという。

２２　福専寺

揖保郡太子町東保字宗田 130番地

浄土真宗　本願寺派

もとは見星寺といい、真言宗の寺院であったという。後兵火にかかって荒廃していたのを明応 3年（1494）秀慶が真宗寺院として再興したと伝える。

その他、順海寺（山田、真言宗）・教円寺（塚森、真言宗西本願寺派）・聖徳寺（太田、法相宗）・徳道堂（矢他部）等があるが、近世以降に創建された寺である。

調査資料及び参考文献

(1) 揖保郡石海村史　　兵庫県揖保郡石海村　　昭和27年 8月10日

(2) 兵庫県近世社寺建築緊急調査　調査表　　昭和53年 9月

(3) 兵庫県神社誌　中巻　　兵庫県神職会編　　昭和13年 3月31日

(4) 郷土資料　斑鳩高等小学校

(5) 石海村郷土資料

第１表 太子町の神社一覧表

太子町内に関係のある神社

各社	名　称	所 在 地	備　考　（氏子・祭神・祭礼）
県社	阿宗神社	龍野市誉田町広山 字宮ノ前	阿曽・下阿曽・立岡・矢田部・松尾（弘山荘）　神功皇后・応神天皇・玉依姫命　2月19日．10月15日
県社	魚吹八幡宮	姫路市網干区宮内 字小松原	糸井（福井荘）　品陀和気命・息長足比賣命・玉依比賣命　10月 21.22日
郷社	破磐神社	姫路市太市西脇 字浄安寺山	広坂（大市郷）　神功皇后・応神天皇・仲哀天[illegible]　10月18日

太子町内にある神社

石海地区

各社	名　称	所 在 地	備　考　（氏子・祭神・祭礼）
郷社	石海神社	太子町宮本字宮ノ前	宮本・老原・福地・船代・岩見構・蓮常寺・常全・竹広・塚森（石見郷）　崇導大明神（舎人親王）　10月 18.19日
	荒神社	宮本字宮ノ本	宮本　素盞嗚尊
	石海御霊神社	宮本	宮本　村内功績者
	八幡社	常全字八幡ノ本	常全　品陀和気命
	建速神社	常全字日蓮寺	常全　素盞嗚尊・素盛島命
	老林神社	老原字村前	老原　大炊命・古刀比羅大神　7月 28.29日
	天神社	蓮常寺字大門	蓮常寺　菅原道真公・皇神　4月2[illegible]
	一の宮	蓮常寺字一ノ宮	蓮常寺　大名持神
	崇道神社	蓮常寺	蓮常寺　舎人親王
	皇神社	竹広字前田	竹広　天兒屋根神　4月 15.16日
	崇導神社	福地字上土木	福地　舎人親王
	皇神社	福地字上土木	福地　天照皇太神・菅原道真公
	荒神社	塚森字塚之本	塚森　崇道大明神
	皇神社	岩見構字鎌屋敷	岩見構　八衢比古神・八衢比売神
	皇神社	岩見構字鎌屋敷	（不詳）
	皇神社	吉福字池ノ川	吉福　大年神
	皇神社	沖代字前田	沖代　大年神

各社	名　称	所　在　地	備　考　（氏子・祭神・祭礼）
	皇神社	米田字村後	米田　若年神
	菅原神社	太子町立岡字山ノ下	立岡　道真朝臣
	八幡神社	立岡字山畑	立岡　応神天皇
	建速神社	立岡字小河	立岡　須佐之男命
	武大神社	糸井字村北	糸井　素盞嗚尊
	嚴島神社	糸井字糸井山	糸井　市寸島比賣命
	稲荷社	船代字大上権	船代　御食都神　4月初午
村社	八幡神社	吉福字ウチナウケ	吉福・沖代・米田　品陀和気命・大歳若年神　10月 15.16日

鵤　地区

各社	名　称	所　在　地	備　考　（氏子・祭神・祭礼）
	建速神社	阿曽字荒神ノ本	阿曽　天照皇大神
	建速神社	下阿曽字荒神本	下阿曽　素佐嗚命
村社	春日神社	馬場字春日	馬場（太子町馬場字樋ノ下に移転）天兒屋根命
郷社	稗田神社	鵤字稗田筋926	馬場・鵤・東南・東保・東出・佐用岡（鵤荘）稗田阿礼　10月15. 16日
末社	建速神社	鵤字門田	鵤（北之町）　建速素佐嗚　7月20日
末社	八幡神社	鵤字堂ノ後	鵤（小田町）（小田堂八幡）　応神天皇　7月20日
末社	大神宮社	鵤字上之町	鵤（上之町）　天照皇大神　7月20日
末社	金刀比羅神社	鵤字太子山	鵤（東本町）　事代主命

田地区

各社	名　称	所　在　地	備　考　（氏子・祭神・祭礼）
	天満社	太子町東南	東南　7月25日
	三宝皇神社	東南字檀特山	東南　7月25日
	八幡宮	東保	東保　7月15日
	大歳神社	東保字東保山	東保　大巳貴命　7月25日
	荒神社	東保	東保　素盞嗚尊　8月 1日
	稲荷神社	東保字高田	間野　3月初午ノ日　7月19日
	三宝皇神社	東南	東南

各社	名　称	所　在　地	備　考　（氏子・祭神・祭礼）
	荒神社	東出字旗ノ前	東出　7月28日
	稲荷神社	太田字南西山	太田　（黒岡稲荷神社）　7月19日
	天神社	矢田部	矢田部　7月25日
	荒神社	矢田部	矢田部　7月25日
村社	黒岡神社	太田字八幡	太田　誉田別命・菅原道真命・藤原貞国命　10月15日
	八幡社	太田字田中	太田　（黒岡神社の末社）　7月15日
	稲荷神社	太田	北村
	稲荷神社	太田	川島
	荒神社	太田字西山	沼田
	天神社	天満山	天満山　7月2[illegible]
	黒岡明神	原	（不詳）
村社	大歳神社	原字南町	原　若歳ノ命　10月15日
	稲荷神社	原字南町	原
村社	伊都岐嶋神社	山田字檜木谷	山田　伊都岐嶋姫命　7月28日　10月15日

竜田地区

各社	名　称	所　在　地	備　考　（氏子・祭神・祭礼）
	荒神社	太子町佐用岡字寺垣内	助久　素盞男尊　村ノ北　7月15日
	荒神社	佐用岡字	助久　素盞男尊　村ノ東方
	荒神社	佐用岡字五反田	助久　石堂
	稲荷神社	佐用岡字	助久　保食神　村ノ中
	荒神社	佐用岡字前山	柳　素盞男尊　7月 7.8日
	大歳神社	佐用岡字宮ノ本	佐用岡　用明天皇　7月8.1[illegible]
	皇神社	佐用岡字堂ノ後	平方　7月15日
村社	王子神社	王子字垣内	王子　彦寤真命　10月15日
	荒神社	松ケ下	松ケ下　7月25日
村社	若王子神社	上太田字鳥ケ下	上太田　仁徳天皇　10月15日
	稲荷神社	上太田字鳥ケ下	上太田　保食神
	八幡社	松尾字西辻ノ下	松尾　応神天皇　10月15日
	菅原神社	松尾字西辻ノ下	松尾　菅原道真　7月25日
	荒神社	松尾字谷田	鵜飼　弁財天女　7月10日
	稲荷神社	松尾字谷田	鵜飼　保食神　7月1.20日
	大歳社	広坂字宮ノ前	広坂　大歳神　7月15日

第２表　太子町の寺院一覧表

番号	名　称	所　在　地	備　考（宗派）
1	斑鳩寺	太子町鵤字斑鳩寺709	法相宗 ⇨ 天台宗
	浄土房	鵤字斑鳩寺736	一代保壽院・一代保性院⇨本妙院
			⇨宝勝院
	等覺院	鵤字斑鳩寺729.730	一代實相院　⇨青龍院
	理教房	鵤字斑鳩寺727	一代禪林房　⇨禪林院
	東圓房	鵤字斑鳩寺727	⇨禪林院
	圓壽院	鵤字斑鳩寺713	持禪房・一代正教房　⇨禪林院
	松之房	鵤字斑鳩寺727	一代慈尊院・一代如意房⇨不動院
			⇨常智院
	青林房	鵤字斑鳩寺710	圓壽院に属する　⇨圓珠院
	雙樹院	鵤字斑鳩寺739	安養坊 ⇨ 雙樹院　⇨双樹院
	圓光院	鵤字斑鳩寺741	
	佛餉院	鵤字斑鳩寺705	
	實相院	鵤字斑鳩寺742	一代不動院屋敷　⇨佛餉院
	不動院	鵤字斑鳩寺707	佛餉院境内　⇨佛餉院
	普門院	鵤字斑鳩寺708	佛餉院境内　⇨佛餉院
	西之房	鵤字斑鳩寺706	一代實教坊⇨佛餉院墓地⇨佛餉院
2	願成寺	太子町松尾字西辻ノ下185	臨済宗　妙心寺派
3	長福寺	太子町	不明
4	円勝寺	龍野市誉田町福田　八軒屋	廃寺
5	蓮城寺	太子町蓮常寺	廃寺
6	川原寺	太子町原	廃寺
7	日輪寺	太子町太田	廃寺
8	本住寺	太子町鵤字斑鳩寺745	廃寺
9	西光寺	太子町鵤字小田町1244	浄土真宗　大谷派
10	法心寺	太子町佐用岡字寺垣内562	浄土真宗　本願寺派
11	願念寺	太子町上太田字南屋敷814	浄土真宗　大谷派
12	照雲寺	太子町広坂字東垣内450	浄土真宗　大谷派
13	正円寺	太子町阿曽字屋敷376	浄土真宗　大谷派
14	了源寺	太子町福地字福地408	浄土真宗　大谷派
15	蓮光寺	太子町常全字入ノ口204	浄土真宗　大谷派

番号	名　　称	所　　在　　地	備　　考（　宗派　）
１６	蓮生寺	太子町岩見構字前田276	浄土真宗　西本願寺派
１７	善導寺	太子町竹広字前田185	浄土真宗　本願寺派
１８	教興寺	太子町蓮常寺字大門147	浄土真宗　大谷派
１９	正覚寺	太子町立岡字前田346	浄土真宗　本願寺派
２０	浄因寺	太子町太田字清水本2051	浄土真宗　大谷派
２１	清光寺	太子町矢田部字小倉211	浄土真宗　本願寺派
２２	福専寺	太子町東保字宗田130	浄土真宗　本願寺派
２３	順海寺	太子町山田663-24	真言宗　醍醐派
２４	教円寺	太子町塚森字塚ノ本105	浄土真宗　西本願寺派
２５	聖徳寺	太子町太田字八幡1000	法相宗
２６	徳道堂	太子町矢田部字小倉228	徳道上人堂
２７	正覚院	太子町沖代字惣田 201	真言宗　醍醐派
２８	薬師庵	太子町岩見構字前田324	臨済宗　妙心寺派